

メタセコイア (土屋中学校の樹)

＜学校教育目標＞
夢に向かって

～生徒には夢を 保護者には感動を 職員には技を～

第 11 号

令和 7 年 3 月 3 日発行

さいたま市立土屋中学校

さいたま市西区土屋 1 7 6 6 - 1

TEL 0 4 8 - 6 2 2 - 4 6 1 1

✉ tsuchiya-j@saitama-city.ed.jp

感謝

～土屋のことは 夢のまた夢～

校長 澤田純一

なんという静寂でしょう。積もった雪、空から舞い散る雪、雪は全ての音を消してしまいます。今日は、2年生の自然の教室。引率責任者として少年自然の家を訪れています。普段であれば私の横には相棒のプルートとフィガロがいるのですが、音のない静かな部屋は私に穏やかな時の流れを与えてくれるとともに自ら刻んできた歴史を回想させるのです。

目を閉じれば浮かんできます。耳をすませば聞こえて来ます。今から24年前、私はここ館岩少年自然の家で指導主事として3年間にわたり勤務していました。当時は妻と4人の幼少の子供を川越に残し単身赴任の勤めでありました。ここでは、夏は小学生、冬は中学生を受け入れることとなりますが「自然に触れ、自然に学び、自然で鍛える」その一心で児童生徒に感動を大切にしてもらいたいという思いで励んでいました。春には太陽の光がブナの新緑にそそぎ、その緑たるものの美しさ。これほど美しい緑があるのかと感動しました。そして、短い夏。夜空を見上げればそこには満天の星が広がり、天の川が私を誘います。ロマンを抱かせる天体ショーでした。また、尾瀬沼を訪れるたびに景色を変えて迎えてくれました。自然が織りなすパノラマを前に、人間の小ささを痛感したものです。

思い出はそれだけではありません。今まで多くの生徒の教育に携わって来ましたが、その中でも授業が一番の楽しみであり、また自分のプライドを賭けた勝負の場所でもありました。特に「できた!」「分かった!」というときの生徒の表情は何よりも私に感動をくれました。逆に「できない!」「わからない!」という曇った表情には「教え方を間違えたか。どうするものか?」と自問自答を繰り返して反省しました。今は校長という立場にいますが「校長は話で勝負、教員は授業で勝負」という信念は変わりません。

部活にも燃えましたね。勝つ喜びと負ける悔しさを知ってもらいたいと願い、剣道を教えていました。そして、最終的に身につけて欲しいことは武士道で、人間形成を理念としました。「文武両道」という言葉がありますが、時代が変わろうともその通りと思うのです。

その他にも修学旅行で見た歴史ある街並み。ひたいに汗を流しながら全力で駆け抜ける体育祭。心に響く合唱コンクール。などなど生徒一人一人の顔が思い出されます。楽しかった。実に愉快であったと。

もちろん苦勞もありましたよ。しかし、困ったときはいつも生徒の笑顔が救ってくれたのです。元気をくれましたね。嫌なことも忘れさせてくれました。生徒の笑顔というパワーは、何ものにも変え難い世界一のものだと確信しています。これは、私にとって唯一無二のものであり宗教が創造した神を超えるのです。

このように、33年の月日を中学校教育にそそいできました。上江橋を何回渡ったでしょう。出勤は朝陽に向かって、帰宅は夕陽に向かって。このように上江橋は私にとって夢に向かう「栄光の架橋」なのです。そして、教師として校長として、一人の男として教員生活の最後に土屋中の皆さんに出会えたことは、一生の宝物であり、短い時間でしたが皆さんの成長に関われたことは私の誇りです。私の人生はこの土屋中に出会うためにあったのだと。遠く離れた館岩から3年生には「卒業おめでとう」2年生には「これからの土屋中を頼む」1年生には「良き先輩となれ」そして「自分の人生遠慮するな!喜怒哀楽全開でいこうぜ!出会ってくれてありがとう!!」と本懐を遂げた男は心の底から感謝を伝え、静かに筆を置くのです。

富士あおぎ 荒川そそぐ 土屋地に 思いあふれし 春の訪れ

完